

目 次

本 編 補 遺

* 以下の括弧書き部分は『司法権・憲法訴訟論 上・下』(本編)の本来あるべき位置を示す。

- 第**37**章(本編第1章の2) **裁判官の独立** ……………4
- はじめに 4 1 戦後の諸事件・再確認 8 2 立憲主義と裁判官の独立 18 3 最高裁人事について 29
おわりに 35
- 第**38**章(本編第3章の2) **憲法院的機関の憲法上の可能性** ……111
- はじめに 111 1 内閣法制局の歴史と根拠と限界 112
2 憲法院概略及び一部導入論 123 3 日本型憲法院の合憲性——独立行政委員会合憲論からの展開 132
おわりに 142
- 第**39**章(本編第5章の2) **民事裁判を受ける権利** ……………165
- はじめに 165 1 片山智彦「裁判を受ける権利」論とその評価 166 2 民事訴訟のIT化と「裁判を受ける権利」 172
おわりに 179
- 第**40**章(本編第18章の2) **二重の基準論の多角的再検討** ……188
——立憲民主制
- はじめに 188 1 民主主義と司法審査 189 2 平和主義と司法審査 206 3 市場主義と司法審査 217
おわりに 231

第41章 (本編第18章の3) **二重の基準論の再再検討** 253

- はじめに 253 1 ときに民主主義と対峙する司法権 254
2 近代立憲主義再考 260 おわりに 265

第42章 (本編第22章の2) **幸福追求権** 273

- はじめに 273 1 幸福追求権の性格論争 275
2 憲法13条の保障範囲を比較的広範に理解する見解 281
3 憲法13条の保障範囲を限定的に理解する見解 291
4 憲法13条と司法審査基準 306 おわりに 316

続 卷 本 体

— 刑事手続と司法審査 —

第43章 **刑事法学における憲法の取扱い** 340

— 本編を引き継いで

- はじめに 340 1 憲法31・32条を巡る問題 343
2 憲法33条以下を巡る問題 349 3 憲法全般の問題
— 團藤説を中心に 363 おわりに 366

第44章 **憲法学における刑事法の取扱い** 385

- はじめに 385 1 明治世代 386 2 大正世代 391
3 昭和(戦前)世代 397 4 昭和(戦後)世代 410
おわりに 423

第45章 **刑事法学における死刑論** 441

- はじめに 441 1 團藤重光 442 2 死刑廃止論側
による擁護 452 3 死刑存置論側からの批判 465
おわりに 474

第46章	死 刑	500
	はじめに 500	
	1 生命刑と憲法31条 502	
	2 法律の委任 506	
	3 罪刑の均衡 509	
	4 適正手続 517	
	5 残虐刑の禁止 522	
	おわりに 528	
第47章	緊急逮捕	548
	はじめに 548	
	1 定義及び判例など 549	
	2 合 憲 論 554	
	3 違 憲 論 559	
	4 違憲論の批判を受けて 567	
	5 緊急逮捕の憲法論を超えて 575	
	おわりに 580	
第48章	閲覧・複写物の公表	591
	——刑事訴訟法281条の4	
	はじめに 591	
	1 表現の自由の問題として 593	
	2 刑事手続の適正の問題として 601	
	おわりに 604	
第49章	アメリカにおける刑事手続の司法審査	613
	はじめに 613	
	1 逮捕・捜索・押収・取調手続 615	
	2 訴訟手続 623	
	3 刑事実体法 633	
	4 ヘビラス・コーパス 639	
	おわりに 640	
	アメリカ判例研究	663
	A. 追跡した車に対するパトカーのバンパー攻撃と修正4条 Timothy SCOTT v. Victor HARRIS, 550 U.S. 372 (2007)	663
	B. 同乗者への下車命令と修正4条 MARYLAND v. Jerry Lee WILSON, 519 U.S. 408 (1997)	671
	C. 警察官の不合理とは言えない法律の錯誤と修正4条 Nicholas Brady HEIEN v. NORTH CAROLINA, 574 U.S. 54 (2014)	678
	D. 飲酒運転者が意識を失った際の令状なき強制採血と修正 4条 Gerald P. MITCHELL v. WISCONSIN, 588 U.S. ____, 139 S. Ct. 2525 (2019)	698

- E. ミランダ警告なしの自発的供述から得られた物的証拠の証拠能力 UNITED STATES v. Samuel Francis PATANE, 542 U.S. 630 (2004) 728
- F. 無罪主張の死刑宣告事件での公選弁護人の有罪前提の弁護と修正6条 Robert Leroy McCOY v. LOUISIANA, 584 U.S. ___, 138 S. Ct. 1500 (2018) 744
- G. 対審権と伝聞証拠(公判外証言) Donald BULLCOMING v. NEW MEXICO, 564 U.S. 647 (2011) 768
- H. 死刑事件における陪審決定欠如違憲判決の遡及可能性 Dora B. SCHRIRO v. Warren Wesley SUMMERLIN, 542 U.S. 348 (2004) 792
- I. 州の重罪事件の陪審での全員一致 Evangelisto RAMOS v. LOUISIANA, 590 U.S. ___, 140 S. Ct. 1390 (2020) 802
- J. 無罪評決の量刑評価と二重の危険 UNITED STATES v. Vernon WATTS; UNITED STATES v. Cheryl PUTRA, 519 U.S. 148 (1997) 840
- K. 有罪判決の上訴審破棄後、有罪を根拠に付加的に支払った金銭の返却 Shannon NELSON v. COLORADO, 581 U.S. ___, 137 S. Ct. 1249 (2017) 849
- L. ヘビアス・コーパス審査における州裁判所の最終判定方法 Marion WILSON v. Eric SELLERS, 584 U.S. ___, 138 S. Ct. 1188 (2018) 868

第50章 刑事適正手続と憲法保障 899
 —その司法審査基準

- はじめに 899 1 「適正」手続とは何か 900
- 2 「適正」と司法審査基準 909 3 少年法への準用——「適正」の修正 918 おわりに 926

第51章 刑事実体的権利と憲法保障 937
 —その司法審査基準

- はじめに 937 1 罪刑法定主義の展開 939
- 2 実体的刑罰法規の適正の中身と範囲 948 3 刑事

実体法法定・適正の憲法保障を再考する 962 おわりに
に 971

第52章 おわりに994

——憲法訴訟論の適正手続・身体的自由への発展・展開
を踏まえた司法審査基準論体系の再検討

はじめに 994 1 芦部信喜説ほか 996 2 佐藤幸
治説ほか 1007 3 小山剛説ほか 1011 4 渋谷秀
樹説 1020 5 松井茂記説ほか 1024 6 伊藤健
説 1031 おわりに 1037

付録——本論で取り上げなかった主要憲法判例と評釈一覧

初出一覧

あとがき

事項索引

判例索引

『司法権・憲法訴訟論 上巻』(本編) 目次

- 第1章 司法権論序説
- 第2章 司法権定義及び裁判所の間領域論
——客観訴訟・非訟事件等再考
- 第3章 特別裁判所論
- 第4章 司法権と適正手続
——日本国憲法31条の射程について
- 第5章 司法権と「裁判を受ける権利」
——日本国憲法32条の法意
- 第6章 裁判員制度論
- 第7章 成熟性・ムートネスの法理
——「司法権」要件の動中静的要請
- 第8章 統治行為論
- 第9章 判例の拘束力
——判例変更、特に不遡及的判例変更も含めて
- 第10章 判決の一般的効力と遡及効
——時空を超えた救済
- 第11章 事情判決の法理
——議員定数不均衡問題を素材に
- 第12章 将来効判決、積極的な司法的救済、可分論
——続・議員定数不均衡問題を素材に
- 第13章 憲法の私人間効力論・再論
- 第14章 特別権力関係論
- 第15章 司法権論終論

『司法権・憲法訴訟論 下巻』(本編) 目次

- 第16章 憲法訴訟論序説
- 第17章 政治過程の中の憲法裁判
- 第18章 司法審査基準論
——二重の基準論
- 第19章 参政権
——議員定数不均衡問題を三度素材に
- 第20章 平等権
——これまでの最高裁による違憲判決の本丸
- 第21章 経済的自由
——国家の通貨発行権を素材に
- 第22章 社会権
——「教育を受ける権利」の再考
- 第23章 立法の不作为
- 第24章 第三者の憲法上の権利の主張
- 第25章 憲法判断回避の法理
- 第26章 合憲限定解釈
- 第27章 適用違憲
——それは「原則」である
- 第28章 法令違憲・運用違憲・処分違憲
- 第29章 LRAの基準
- 第30章 「明白かつ現在の危険」テストもしくはブランデンバーグ・テスト
- 第31章 事前抑制の禁止の原則
——「検閲」の禁止を含む
- 第32章 明確性の原則
——曖昧・漠然性ゆえ無効の法理
- 第33章 過度に広汎性ゆえ無効の法理
- 第34章 政教分離
- 第35章 大学の自治
——国立大学法人化を素材に
- 第36章 憲法訴訟論終論